

八重山諸島におけるツーリズム研究のための基礎調査 ——竹富島・西表島・小浜島の人々と自然とのかかわりの変遷——

松村 正治
(東京工業大学大学院)

はじめに

本調査の対象地は、沖縄県八重山諸島に位置する竹富島・西表島・小浜島の3離島である。ともに行政区としては沖縄県竹富町内にあるが、観光という側面からみると、それぞれ特徴が異なる。その特徴を簡潔に表現すると、島民の自主的な取り組みによる観光振興を実践してきたとされる竹富島、本土資本を導入して約20年前にリゾート開発が行なわれた小浜島、原生自然を観光資源として近年エコツーリズムが盛んになっている西表島、となるだろう。本調査では、2000年度から3年間かけて、これら八重山の3離島における観光開発の比較対比を行ない、環境への影響緩和方策を検討することを目的としている。

この調査目的を素直に読めば、本調査研究は「環境」研究であるといえる。ある「環境」が指定されるということは、そこに「環境」を外縁に持つ中心があるはずで、それは通常「人間」である。ツーリズム研究の場合、この「人間」が「ホスト」か「ゲスト」かによって認識される「環境」が異なる可能性が大きい。環境認識をめぐって対立が生じるとき、そこに「環境問題」が現れる。このため、そうした問題を未然に抑制したり、あるいは発生した問題を解消するためには、対象となる「人間」がどのように「環境」を認識しているかを調べる必要がある。しかし、ただ現在の環境認識を調べればよいというわけではない。それは人間の知と関係しているので、歴史的に明らかにする作業が必要となる。

このようなことから、本調査では、「環境」を科学的に調査・分析することよりもむしろ、「人間」によって「環境」がどのように認識されてきたかを聞き取りによって明証する。そして、「ホスト」「ゲスト」による環境認識をめぐる政治の場におい

て、どのような調停がありうるのか、あるいはありえないのかを考究する。もちろん、そうした場においては、「ホスト」「ゲスト」という二分法も切れ味が鈍いだろう。なぜなら、そこではそうした集合的アイデンティティでは十分に掬うことのできない個人のアイデンティティが賭けられるはずだからである。だから、個別的かつ具体的な聞き取り調査が、なおのこと不可欠なのである。

この報告は、全体で5章から成る。Iでは、既往文献、行政資料を基にして、調査対象地の概要をまとめ、II～IVでは、そうした資料および初年度の現地調査を踏まえ、調査対象となる3つの離島ごとに、主として戦後の環境史を、特に島民と自然とのかかわりの変遷を辿りながら整理した¹⁾。Vでは、この調査の主眼である観光に焦点を当て、現時点で明らかになってきた各離島におけるツーリズムの問題点をとりまとめた。

I. 調査対象地の概要

1. 気象

八重山諸島は、地理的には北回帰線のすぐ北に位置し、近海を黒潮が流れている(図1)。年平均気温は、石垣島23.8℃、西表島23.3℃である(表1, 2)。海洋に囲まれているため、年間を通して気温の日較差は小さく、また湿度は年平均約80%と高いことから、亜熱帯海洋性気候と呼ばれている。四季の変化は不明瞭だが、夏と冬の季節の相違は大きい。夏期は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、真夏日と熱帯夜が続く。これに対して、冬期はシベリア高気圧が発達して、周期的に北東の季節風が吹き、小雨まじりの曇天で肌寒い日が多い。

年平均降水量は、石垣島2,065.8mm、西表島2,342.5mmと2,000mmを越える。しかし降水量

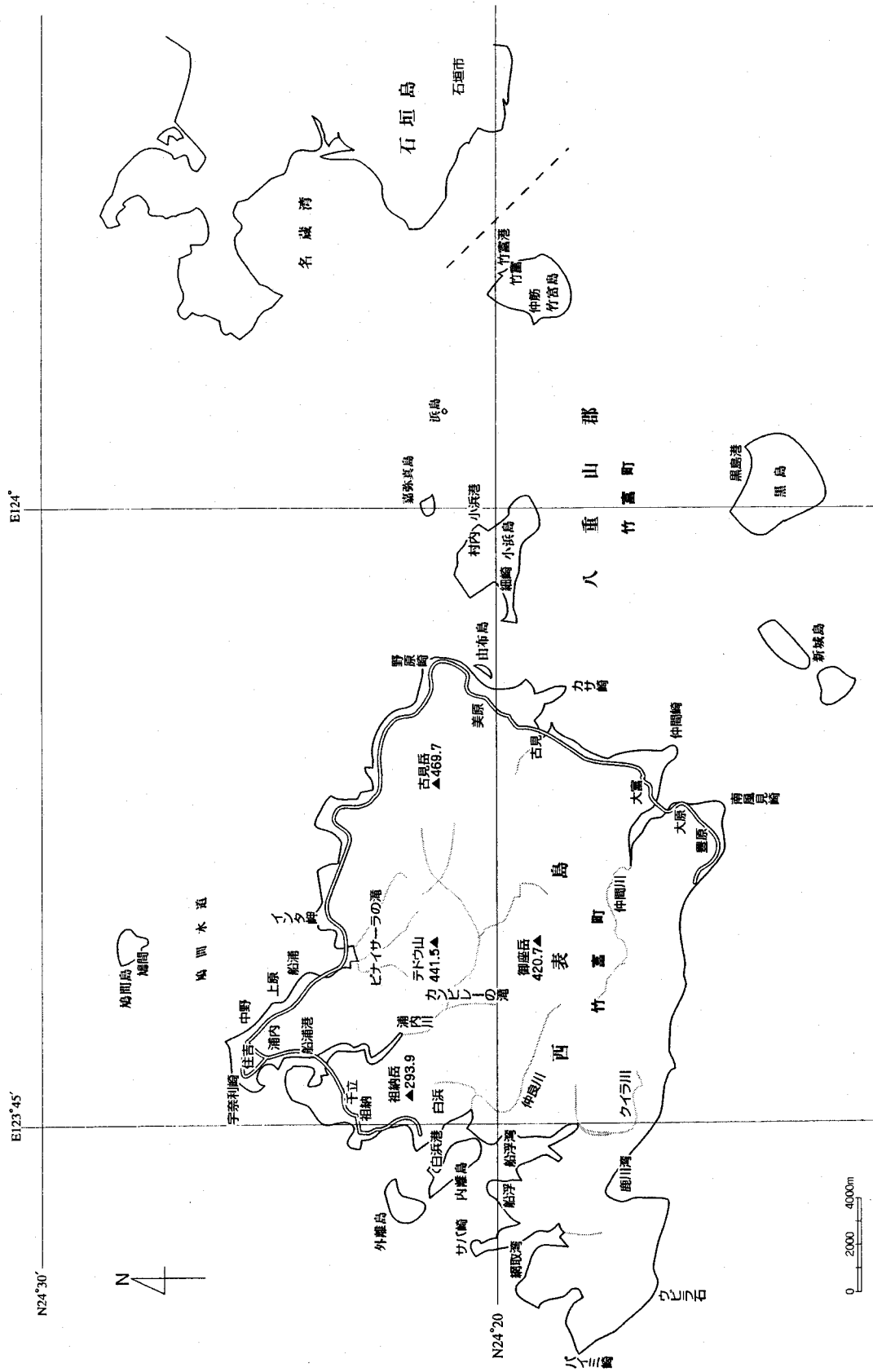


図1 調査対象地の位置

表1 石垣島の平均気温・降水量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温 (°C)	17.7	18.3	20.2	23.0	25.7	27.7	29.2	28.8	27.7	25.3	22.5	19.4	23.8
降水量 (mm)	119.8	112.9	125.5	152.0	230.6	202.2	181.2	235.9	229.0	173.7	169.4	133.4	2,065.8

石垣市(1999)をもとに作成(資料:石垣島地方気象台、統計期間:1961~1990年)

表2 西表島の平均気温・降水量

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
平均気温 (°C)	17.6	18.1	19.8	22.6	25.5	27.2	28.4	28.0	27.0	24.9	22.1	19.1	23.3
降水量 (mm)	172.3	161.4	153.2	163.6	210.6	196.1	193.2	244.4	248.1	222.8	224.1	152.9	2,342.5

竹富町(1999)(資料:西表島測候所、統計期間:1961~1990年)

は、梅雨と台風に依存するため、年によっては夏に干ばつになることがある。一方、大型の台風が接近するときは、甚大な被害に見舞われる。

2. 人口

1) 人口動態

調査対象である3離島は、終戦直後、引揚者が集まったために人口が激増した。たとえば竹富島では、戦前は人口が900~1,000人だったのが、2,300人程度に膨れ上がったと言われている。しかし、一時滞留者たちは、島の荒れ地を開墾して生活を送り、しばらくして、石垣島や沖縄本島、あるいは本土へと移っていった。

表3は、対象3島と石垣島における戦後の人口推移を示している。これによると、同じ八重山にあっても、石垣島と他の3離島の間には顕著な違いをみることができる。

石垣島は、1955年から1965年にかけて人口が8,000人程度増加し、その後10年間は減少して1955年のレベルに戻ったが、再び1985年にかけて増加に転じて1965年のレベルを回復し、その後10年間はほぼ横ばいとなっている。一方、対象3島の人口は、1955年から減少の一途を辿っていたものの、小浜島は1975年から、西表島は1985年から増加傾向にある(図2)。

また、最近の「竹富町地区別人口動態表」(平成12年7月現在)によると、竹富島の人口は280人であり、増加の兆しが認められるほか、西表島の人口は2,008人で、近年急速に人口が増えていることがうかがえる。これに対して小浜島の人口は460人で、1990年から人口が減少している。

2) 年齢構成

次に、年齢3区分(0~14歳、15~65歳、65歳以上)によって島ごとに人口の内訳を示したのが表4である。これによると、西表島が竹富島・小浜島とは大きく異なる年齢構成であることがわかる。つまり、3島を比較すると、西表島は若年・青壮年が多いのに対し、竹富島・小浜島は老年が多い。特に、竹富島は65歳以上の割合が3人に1人(33.6%)と極めて高い。これは、西表島の割合17.6%のほぼ2倍に相当する水準である。西表島が相対的に「若い島」であるのは、近年、特に観光の著しい西部において、若年の流入が多いことによるとみられる。

3. 産業(特に農業)

1) 産業別就業者数

表5は、対象3島の産業別就業者数とその割合を示したものである。

表3 島別の人口推移

年	竹富島	西表島	小浜島	石垣島
1955	1,054	4,027	1,054	33,131
1960	789	3,496	934	38,481
1965	480	3,287	825	41,315
1970	336	2,302	560	36,554
1975	352	1,515	410	34,657
1980	356	1,533	456	38,819
1985	308	1,641	488	41,177
1990	273	1,711	503	41,245
1995	262	1,887	486	41,777

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成
(資料:国勢調査、単位:人)

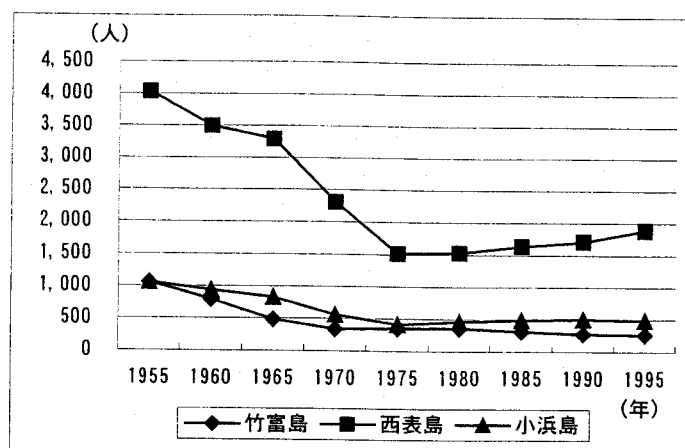


図2 対象3島の人口動態

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:国勢調査、単位:人)

表4 対象3島の年齢構成

	総数	年齢別人口 (人)			年齢別人口割合 (%)		
		0-14歳	15-64歳	65歳-	0-14歳	15-64歳	65歳-
竹富島	262	40	134	88	15.3	51.1	33.6
西表島	1,918	446	1,135	337	23.3	59.2	17.6
小浜島	486	89	260	137	18.3	53.5	28.2

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:国勢調査1995年)

表5 対象3島の産業別就業者数

	竹富島	西表島	小浜島
総数	133	1,040	258
第一次産業	15	257	68
農業	3	218	55
林業・狩猟業	0	2	0
漁業・水産養殖業	12	37	13
第二次産業	15	163	22
鉱業	0	0	0
建設業	5	118	7
製造業	10	45	15
第三次産業	103	620	168
電気・ガス・水道業	0	2	0
運輸通信業	36	83	11
卸売・小売業	24	156	12
金融保険・不動産業	0	0	0
サービス業	42	362	142
公務	1	17	3

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:国勢調査1995年、単位:人)

この表から、竹富島が西表島・小浜島と異なる産業別人口構成となっていることがわかる。他の2島と比べて、竹富島では、第一次産業、とりわけ農業就業者の割合が2.3%と非常に低い。竹富島が農業から観光の島へと、産業の重心を移動させてきた結果がここに表れている。一方、小浜島は、大型リゾート施設を誘致したものの、島全域が観光化されているわけではなく、サトウキビ栽培と畜産が中心となっており、農業就業者の割合は21.3%と高い。西表島も、西部では観光化は進んでいるが、東部は小浜島と同様にサトウキビと畜産が中心で、農業就業者率は21.0%と高い割合を示している。

また、表の内訳をみると、西表島における建設就業者の割合が高いことが注目される。

2) 農家数の推移

次に、農家数が1980年からどのように変化してきたのかを島ごとにみる(図3~図5)。この図から、竹富島で1985~90年にかけて、農家数が激減したことがわかる。これは、高齢化と観光化に伴うものとみられる。一方、西表島と小浜島の農家数は1985年がピークで、以降は減少傾向が続いている。

また、専業、第一種兼業、第二種兼業の割合をみると、小浜島において、専業農家の割合が48.6%(1995年)と高いことが特徴的である。西表島でも、専業農家の割合は31.0%と比較的高い。

3) 年齢階級別農家人口

表6は、年齢階級別に農家人口を示したものである。西表島では、30~59歳の農家人口が男女合わせて209人(全体の43.4%)を占め、青壮年人口が多い。これに対して小浜島では、65歳以上の農家人口が85人で47.2%を占め、高齢化と後継者不足の問題が深刻であることを読みとれる。

4) 経営耕地面積

表7は経営耕地面積を示したものである。まず、竹富島において田が無いことが注目される。これは、農家戸数が少ないことよりも、島が隆起サンゴ礁からなる「低い島」²⁾であるため、水田ができないという地質に原因が求められる。

八重山の多くの島では、2種類に島を呼び分ける習慣がある。一つは、田国(タンゲン)島と呼ばれ、

山があつて、そこから流れ出る水を利用して田を開くことのできる比較的大きな島である。西表島・石垣島・与那国島・小浜島がこれに相当する。もう一つは、野国(ヌンゲン)島と言ひ、山も川もない平らな島で、水田はまったくみられないか、あつても波照間島のようにわずかに天水田がある島である。竹富島・黒島・新城島・鳩間島・波照間

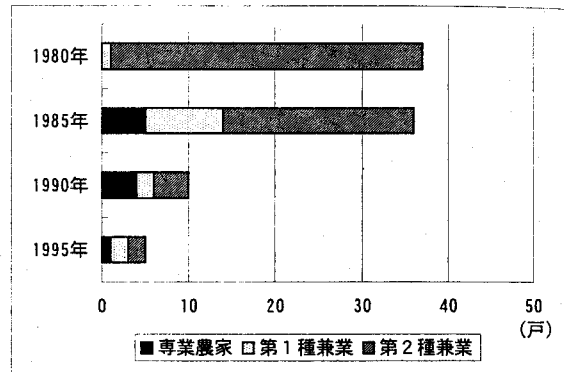


図3 竹富島における農家数の推移

竹富町資料をもとに作成(資料:農業センサス、図4と図5も同様)

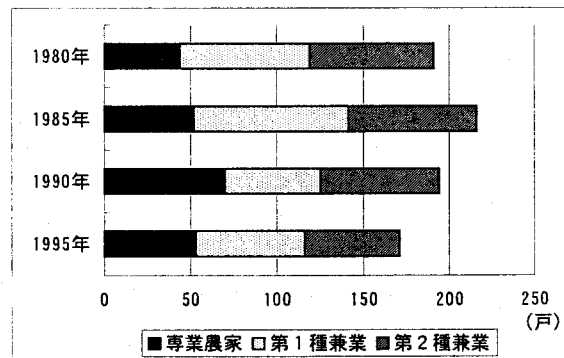


図4 西表島における農家数の推移

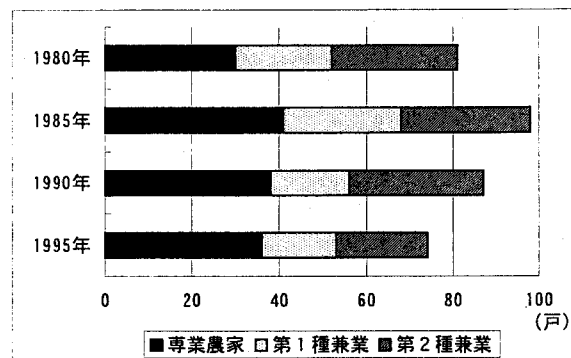


図5 小浜島における農家数の推移

表6 対象3島における年齢階級別農家人口

	竹富島		西表島		小浜島	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0-14歳	7	8	42	37	11	4
15-29歳	1	3	3	5	3	6
30-59歳	0	0	120	89	21	22
60-64歳	3	3	27	27	14	14
65歳-	1	1	63	69	42	43
計	2	1	255	227	91	89
	15		482		180	

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:1995 農業センサス、単位:人)

表7 対象3島の経営耕地面積

	経営耕地面積 (a)				農家戸数 (戸)	農家1戸当り 耕地面積 (a)
	総面積	田	畑	樹園地		
竹富島	1,045	0	755	290	5	209.0
西表島	55,461	5,040	39,614	10,807	171	324.3
小浜島	14,857	1,032	13,815	10	74	200.8

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:1995 農業センサス)

表8 対象3島の牧場数・面積

	牧場数			牧場面積 (ha)			1経営体当たり 牧場面積 (ha)
	総数	個人営	団体営	総面積	放牧地	採草地	
竹富島	7	6	1	91.7	88.4	3.3	13.1
西表島	50	48	2	445.6	290.3	155.3	8.9
小浜島	44	44	0	132.7	98.7	34.0	3.0

沖縄県企画開発部(2000)をもとに作成(資料:市町村報告、平成9年12月末現在)

島がこれに含まれる(安溪, 1988)。このため、竹富島は、農家戸数が多かったときであっても、水田は無かったようだ。

次に目立つのは、西表島における農家1戸当たり耕地面積が324.3aであり、竹富島・小浜島の約200aよりも5割以上広いことである。これは、後者の農業が自給自足を原則とする伝統的な形態を基盤としているのに対して、西表島では、最初から開拓民が大規模農業を目指していたことによると考えられる。

5) 牧場数・面積

表8には牧場数・面積を示した。ここでは、竹富島では1経営体当たり牧場面積が13.1haと広いのに対して、小浜島は牧場数が44と西表島の50とほとんど変わらないのに1経営体当たり牧場面積が3.0haと狭いことがわかる。ただし、竹富島

の場合は、牧場数が7と少ない。

4. 観光

竹富町では、従来、観光客数を船舶利用者の40%として推計していた。しかし、過去の調査では乗船客の70%以上が観光客であったというデータもあり、正確な入域観光客数の把握が必要となっている³⁾。遅ればせながら、2000年の8月と11月に観光客実態調査を行なったが、まだ結果が公表されていないため、現時点では観光客の正確な実態を知る資料はない。したがって、以下に示す図のもとになっているデータは、信頼性が高くないことに留意されたい。

図6は、観光客入域者推定数の経年変化(1989~99年)を示したものであり、図7は、1999年の観光客推定数を月別に示したものである。西表島については、東部の大原港と西部の船浦港の利用

者から入域者が推計されているので、図にも両者を分けて表示した。西表島においては、東部と西部をつなぐ北岸道路の建設が1975年と比較的新しく、それ以前は同じ島にあっても両地区は別の島のような感じと言われる。このため、現在でも東部と西部には多くの点で相違がみられ、観光客の入り方も大きく異なる。

図6・図7をもとにすると、地域を2つのタイプに分けることができる。すなわち、竹富島と西表島東部は90年代を通して観光客数が右肩上がりであり、かつ冬場に大きなピークを迎えるのに対し、西表島西部と小浜島は90年代を通して観光客数が横ばいに近く、また冬場のピークも顕著ではない。このように分かれるのは、近年のパックツアーの流行が影響していると考えられる。なぜなら、そうしたツアーでは、一日にいくつかの島を巡る周遊ツアーが人気であり、竹富島と西表島東部は港から短時間で重要な観光スポットを廻ることができ、ツアーのコースに組み入れられやすいからである。また、夏期より冬期にこうしたツアーが盛んであることも、この考察を支持する。

周遊ツアーがどのようなコースをたどるのか、その例を2つ挙げよう。まず、典型例として、(有)安栄観光主催の「西表島・由布島・小浜島・竹富島 豪

華4島めぐり」(所要時間約8時間30分)がある⁴⁾。

石垣港(8:50)～西表島・大原港(9:35)→仲間川(ボート遊覧・上流サキシマスオウノキ見学)→仲間川ボート乗り場→美原(水牛車にて)→由布島(昼食)→(水牛車にて)→美原→西表島・大原港～竹富島港→マイクロバス観光→水牛観光→竹富港(16:45又は17:15)～石垣港(17:00又は17:30)

一日に4島を巡るコースもある。たとえば、(有)安栄観光主催の「豪華4島めぐり 西表島・由布島・小浜島・竹富島」(所要時間約8時間30分)は、次のとおりである。なお、石垣港を9:30に出て、小浜島を寄らずに3島を巡るコースには「のんびり3島周遊コース」(所要時間約8時間)と名付けられている。

石垣港(8:30)～大原港着→送迎バスにてボート発着場→仲間川ボート遊覧→サキシマスオウの木見学バスにて由布島へ→干潟を水牛車にて由布島植物園→バス→大原港(12:20)～小浜港着→バス→はいむるぶし(昼食)フリータイム→島内観光→小浜港発(14:40)→竹富港着→マ



写真1 由布島の水牛車観光